



題字「ほねほねボード」前田 団員作

ホネホネ団通信 19号 2013年5月5日発行
 なにわホネホネ団事務局
 〒546-0034
 大阪市東住吉区长居公園 1-23 大阪市立自然史博物館
 TEL: 06-6697-6221 FAX: 06-6697-6225
 wadat@mus-nh.city.osaka.jp

来たれ西表島鳥類調査隊へ!

今年から主に哺乳類を扱う通常の活動日と鳥類を扱う「鳥の日」に分けられました。通常の活動日は見学者が多数訪れ、入団試験などもあつてワイワイやるのはこれまで通りですが、鳥の日は見学者もほとんどなく、参加者も少なめで(わりと)黙々と仮剥製を作っています。さらに西表島鳥類調査隊の活動も行われています。そこで鳥の日の活動をちよつとだけ紹介します。

西表島鳥類調査隊

活動開始にあたって

きつかけは、沖縄からの1本の電話だった。忘れもしない2005年か2006年、もしかしたら2004年以前だったかな? とにかく突然、琉球大学のOさんから電話があつた。

「おう、わだー。おまえキンバトの死体いるか?」

Oさんは大学の時のサークルの先輩なので、しゃべりはだいたいこんな感じ。決して怒ってないのだけど、ちよつと怖い。

「はい、いますー!」

もちろん怖い先輩に逆らえるはずがない。



という冗談はさておき、事の次第はこんな感じ。西表島に某官庁の施設があつて、そこには西表島で拾われた哺乳類、鳥類、両生爬虫類の死体が持ち込まれ、冷凍庫に蓄積されているのだが、標本化する人も研究する人もおらず、ただただ死蔵されている。それでは

勿体ないので、ちゃんと標本にして保存しようという話。哺乳類と両生爬虫類については、琉球大学に専門家がいるので、琉球大学が引き取る。でも琉球大学には鳥類の専門家がない。で、O先輩は、大阪の博物館にいる後輩を思い出してくださったのであつた。



先輩からの話でなくても、西表島の鳥の標本が入手できるのは嬉しい。大阪の博物館が西表島に手を出してどうするんだ?という気もするが、意味無く嬉しい。世界的なホットスポットの一つである西表島の生物標本を蓄積するのは、どこにあるかと自然史系博物館の責務に違いない。きつとそうだ。それに、国の天然記念物であり、種の保存法では国内希少野生動物種に指定されているキンバトの死体譲渡の手続きを全部先方がやってくたさるといふのだから、これを逃す手はない。



貴重なキンバトの死体を譲渡するには、研究目的という理由が必要だったらしい。で、なんでもいから研究してくださいね、と条件が付けられた。期限はないとのこと。これって、いわゆる「ある時返しの催促無し」ってやつ? と思いつつ、標本化して、研究しましょうと、安請け合いました。というわけで、めでたくキンバトをはじめとする西表島の鳥の死体をたくさん引き取る事になった。嬉しい。でも、引き取ってから気付いた。これはけっこう大変。最初に鳥の死体が入ったダンボールが届いたのは2007年5月のこと。キンバト97点が入っていた。正直、この1回

だけで終わるんだと思ってた。ところが、なぜかその後も送ってきてくださる。どうやら、鳥の死体がそこそこたまったら大阪の博物館に送れという申し送りがされている様子。ありがたいけど、責任重大。現時点で、キンバト140点を含む西表島鳥類412点の寄贈を受けた。



寄贈された以上は標本化を進めなくてはならない。キンバトはほとんど調べられてないし、こんなにたくさんの死体があれば本当に研究もできそう。ただ、一人で処理するのは大変。そうだ！誰か巻き込んでしまおう！というわけで、西表島鳥類調査隊の発足が決定した（ホネホネ通信14号に規約が掲載されているので参照のこと）。2009年3月の発足から早4年、2013年1月についてキンバト標本化の活動を始めた。最初にキンバトの寄贈を受けてから、6年も経ってしまっただが、何はともあれ活動が始まってホットしている。



調査隊の当面の目標は、現在手元にあるキンバト140点の標本化である。同時に、以下の研究テーマで、データ・サンプルの採取を行う。

- ◆テーマ1：キンバトの食性（標本化の際に、その内容を採集・保存。後日同定）
- ◆テーマ2：キンバトの繁殖期（生殖器の大きさを計測・記録）
- ◆テーマ3：キンバトの性的二型（雌雄に分けて外部形態を計測・記録）

◆テーマ4：キンバトの外部寄生虫相（シラミバエ、ダニ、ハジラミなどの外部寄生虫を採集。専門家に同定を依頼）

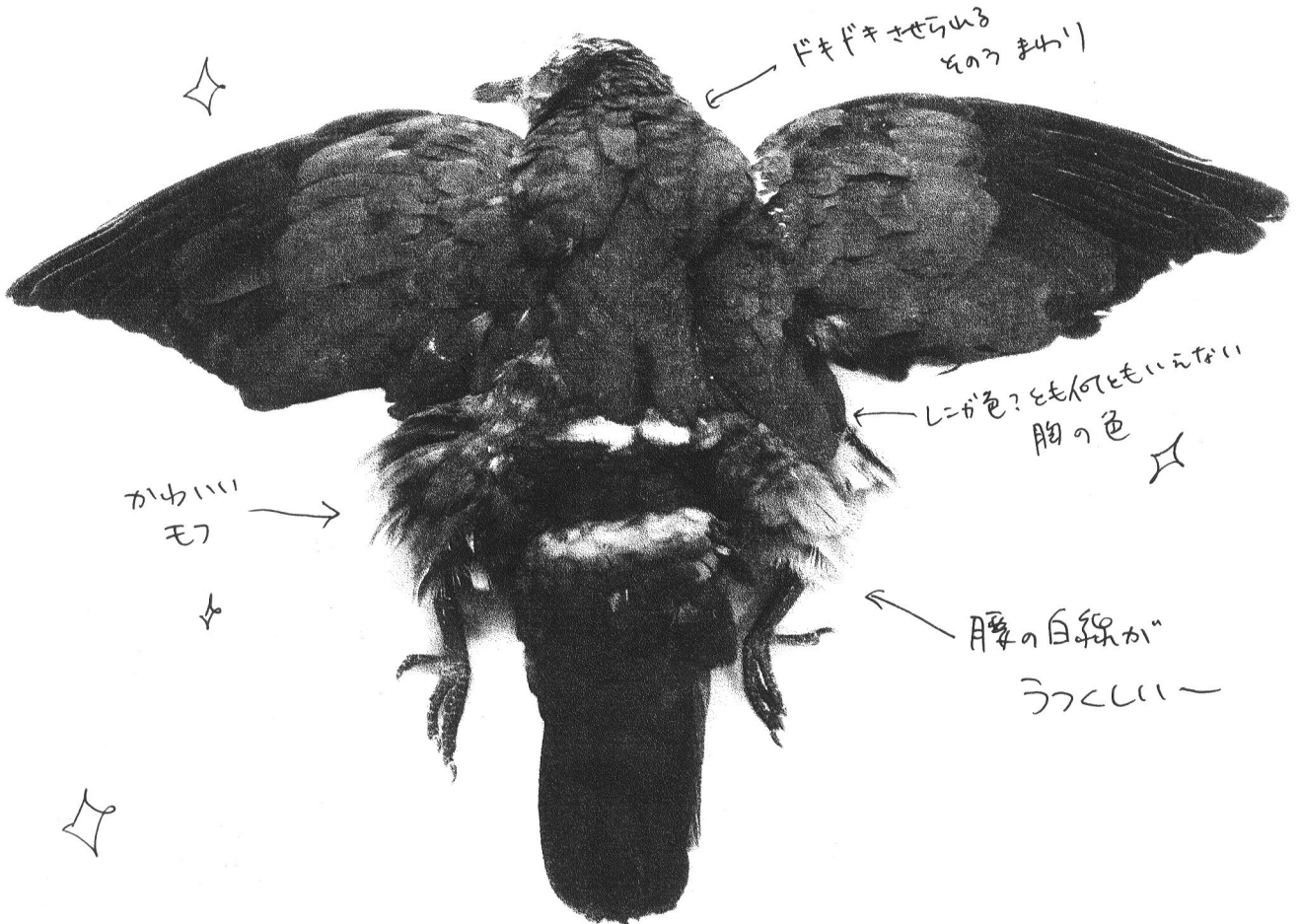


テーマ1の食性調査のためには、その内容物である果実・種子の同定が欠かせない。そのために標本化が一段落した段階で、現地調査を実施する。噂では、貢献度の高い隊員は西表島行きの旅費等のサポートが受けられるらしい（貢献度は、処理したキンバトの個体数で評価）。西表島では、キンバトが食べたとおぼしき植物のサンプリングをするのが目的だが、行ってしまえばこっちのもの。サンプリングの合間に遊んだって構わない。というわけで、西表島に遊びに行きたい、もとい調査に行きたい人は、西表島鳥類調査隊への入隊をオススメする。



入隊するには、ハト類の皮剥きによる入隊試験を受けなくてはならない。やる気だけでなく、十分な鳥類の皮剥きスキルが要求される。なんせ西表島と大阪の冷凍庫で長年熟成された死体なので、その状態が微妙。どんな状態の死体でもそこそこの仮剥製に仕上げられないと困る。まずは、皮剥きスキルを磨いて、来たれ西表島鳥類調査隊へ！西表島でのバカンス、いや違う、調査があなたを待っている。

和田岳

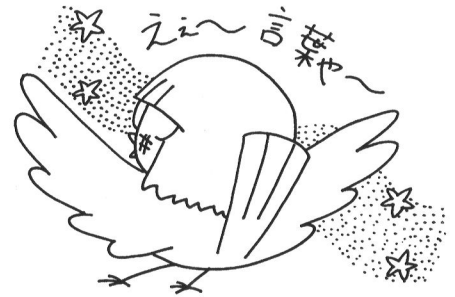


右：カラーで見ると、とても美しいキンバト



役立つかもしれない トリ剥き隊筆記試験 (2013年度前期)

1. 死体は()に限る。
a. 新鮮 b. 野ざらし c. 飢死
2. 作業台は()。
a. まさに戦場だ b. 常に清潔に c. ルンバさんが掃除してくれます
3. 関節部に切れ目を入れた頸椎は()はずす。
a. ねじってひっぱって
b. 接合部に沿って丁寧にメスを入れ
c. ホネ鋏で断ち切って
4. 頸を剥くときは、()。
a. 喉元まで切り裂く。
b. ひっぱらない、皮を押す。
c. メス先を、ちまちま入れてゆく。
5. 脳を出す時、()の開発前は後頭骨の一部を割っていました。
a. 脳ブラシ b. 脳かき出し棒 c. 脳吸引機
6. 頭蓋骨を透かして()が見えるようになったら脳取りはおしまい。
a. そら b. 空 c. 宙
7. 頸が素直に返りにくい頭でっかちの代表は()、()、()です。
* 以下の中から3つ選択せよ。
a. カラス b. ペンギン c. フクロウ d. モズ e. カイツブリ f. カワセミ
8. すごく痛んでいる鳥の嘴を持ってぶら下げると、()と嘴が取れます。
a. パコツ b. スポツ c. ポチヨツ
9. 塩腺というのは()の曲にありますね♪
a. 大江唯起子 b. 野口五郎 c. 藤本三重子
注)「私鉄沿線」と言いたかったらしい。
10. 手袋をしなくても良い～。なぜなら僕たちには()があります。
a. 骨神様のご加護
b. 種の壁と誰にも負けない免疫力
c. ホウ酸の殺菌力



とりむき日記



博物館の冷凍庫に100体ほど眠っている、西表の美しい鳥・キンバト。彼らに触れることは、熟練の技・並外れた精神力をもつ「西表鳥島類調査隊」にしか許されないのである。という噂を耳にし、鳥の仮剥製作りに興味を持って早10カ月。様々な失敗や挫折を積み重ね、先日入隊のお許しを得ました。

パチパチパチ。入隊の嬉しさに浮かれることなく、気をひきしめてキンバト剥きに励みたいと思います。気をひきしめないと、やぶれちゃうからね。皮が。

哺乳類の皮剥きには、いろいろな工程があり、いろいろな人と協力しあって作業する、という楽しさがありますが、標本が出来上がる瞬間にはなかなか立ち会うことができません。しかし鳥剥きにおいては、「自分の作業が全て」なのです。うまくいってもいなくても、それはそのまま残ります。仮剥製になり、新聞紙にくるまれてきれいに並んで横たわる鳥たちを見ると、ああ、「標本」を作ったんだなあ、という実感とともに、達成感のようなものを得ることができません。だからこそ、私が鳥剥きにはまった理由のような気がします。

今年から普通の「活動日」と「鳥の日」が分けられることになり、哺乳類の処理をしつつ鳥の人の作業を眺めることができなくなり

ました。「鳥の日の」の参加予約をしないと「懺悔の部屋」でしか鳥の日の様子が見られない↓何かみんな謝っている↓鳥の日怖い！ということになったら残念だなあ。こんなに楽しいのに。というわけで、私が初心者から西表鳥島類調査隊に入隊するまでの紆余曲折を綴りたいと思います。これを読んで、「鳥の日」、楽しそう！調査隊入りしたい！と思う人が現れたら嬉しいです。

2012年6月23日 ヒヨドリ

初めての鳥剥き。事務局長の模範演技を見ていても全く頭に入らず、とりちゃんに手取り足取り教えてもらう。必死すぎて、昼ご飯を食べるのを忘れる。どかがダメだったから分らず、ただただ疲れた。

2012年8月16日 ハシブトガラス

2羽め。細かなテクニクを観察するよりもまず、手順をきちんと覚えることに主眼をおき、模範演技を見る。皮は薄くなく、作業しやすかったが胸に開ける穴を喉元まで切ってしまう。肩の関節をはずすのに小一時間かかる。また昼ごはん食べるの忘れた。

2012年10月14日 スズメ

3羽め。「事務局長の鳥にはきれいな白い花が咲くんだよ」という詩の一片のような噂を聞き、白い花ティッシュペーパーの使い方を観察。

・あらかじめ、自分の使いたいサイズのティッシュをちぎって用意しておく。使った汚れた

ティッシュはすぐに捨てる。これをしていないから、机の上が散らかる。
・皮&羽の世界と、肉の世界の間にティッシュの壁を作る。これにより、万が一脂や血が流れても羽が汚れることはない。
以上のことを念頭に、スズメを剥く。しかしティッシュのことを意識しすぎ、余計な力をかけ腹の穴を広げてしまう。俗にいう「鳥のひらき」である。無念。

2012年11月18日 ハツカン

4羽め。もう一度、ティッシュの使い方観察。羽界と肉界を分けるのに、ティッシュだけではなく薬指&小指が大活躍しているのに気づく。全ての指をフル活用。羽の汚れを防止する他にも、穴が広がりにくいように力を逃がす、何かを固定するのもとても便利。思った以上に私の指を使いこなせていなかったことに気づき驚いた。さて、ハツカン。飼育放棄の後に餓死した個体。少々腐っておられる。匂いにより思考能力が低下し、作業中なんどもぼんやりしてしまう。時間はかかったが、初めて失敗なくできた。

2012年12月23日 ハシボソミズナギドリ

5羽め。関節をはずしたり除肉したりするのに時間がかかるので、それらを中心に模範演技を観察。事務局長はけっこう大胆に切り込んでおられる。どこまでが肉で、どのあたりに皮があるのかを把握しておけば、大胆に切っても大丈夫なのである。そして、よくわからない部分は皮に残し、後で処理すれば良

いのだ。まずは、羽を汚してしまう可能性の高い大きな肉を早めに除いてしまうことが大切。

以上を念頭に置いて、ハシボソミズナギドリに挑戦。脂肪が少なく、羽も美しい。汚してしまつては申し訳ない。もちろん皮を破つてはならないが、「汚さないこと」を目標に作業。思った以上に上手く仕上がりが、写真をたくさん撮影してニヤニヤ。心置きなくクリスマス会に参加できた。

2013年1月20日 タヌキ

入団試験以来、剥いていなかったタヌキ(試験はアライグマだったけど)。ティッシュをはさまなくても良い解放感！ちよつとやさつとでは破れない厚い皮！楽しい！とテンションが上がりが、試験では9時間かかったのが(途中ヤギさんに手伝わしてもらったもの)4時間でできるようになっていた。鳥効果である。

2013年1月21日 ツグミ

早朝、事務局長にゴム風船でできた鳥の薄皮をメスで剥く特訓をさせられている夢にうなされる。ちよつと手元が狂うと風船が割れてしまい、おこられた。夢の中の事務局長は、なぜか学ランを着ておられた。

6羽め。今回から模範演技を見ずに、自力で剥く。剥きやすいと人気のツグミである。ただし、脂が多め。そういえば、脂っぽい個体を剥くのは初めて。噂には聞いていたが、背中からおしりの皮がとても薄く、つい引っぱ張ってしまった際に1センチほど穴を開けて

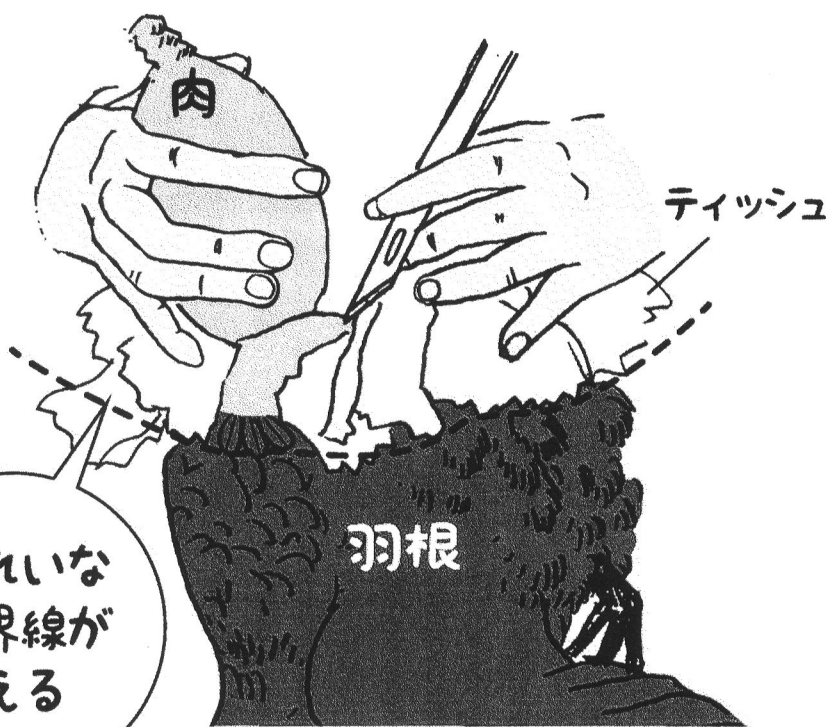
しまった。この日は西表島鳥類調査隊の初活動日で、隊員のみなさんから「あー」「うすい！ムリ！」「モフが、モフが！」「フーッー（深いため息）」などの声にならない声がたくさん聞こえてきて、一緒にドキドキしてしまっただ。恐るべき強敵、キンバト。いつか戦う日が来るのかなあ…、とぼんやり思いながらおにぎりを食べていたら、「もう、いけるんちゃう。入隊試験。」とのお言葉。うう、全

く自信がないんですけど…。

2013年2月24日 キジバト

脂の少ない個体だったので、それほど皮は薄くなく、剥きやすかった。にもかかわらず、腹の穴を2センチぐらい抜けてしまった。無念。

では、穴を拡げてしまったのはなぜかというと、「ハト」について何も考えずに作業し



上：事務局長の模範演技の様子。図のように、ティッシュペーパーを境に肉と羽がきれいに隔てられている。簡単そうで、初心者には意外と難しい。私は作業しているとティッシュがいつのまにか無くなってしまふのです…

始めたからだ。ハトは、他の鳥に比べて胸筋が大きく、さらに大きなそのうを持っている。それを出すには、他の鳥のように「竜骨突起にそってあけた穴」では無理が生じる。竜骨突起より少し上から切り込みを入れると最小限の穴で剥くことができる。何も考えずに竜骨突起にそって開けてしまった穴は、肩を出すのには少し下に位置しすぎ、上腕を外す作業をしているうちに無理な力がかかり、穴が広がった。穴の開きやすい背中を剥くコツがつかめ上手くいっただけに、しょんぼり。

一応「合格」はいただいたのだけれど、自分自身が納得できず。次回もキンバトじゃないハトを剥くことにする。

2013年3月31日 ドバト キンバト

とても立派できれいなドバト。キジバトに比べると皮は丈夫で、モフも抜けにくく剥きやすい。と思っていたら、脚の除肉をし皮を戻す際、骨折して鋭く尖っていた骨の端が皮に刺さり、破れて片足が取れてしまった。他がうまくいったので、余計に残念。

しかし、しょんぼりしている暇はない。机の上には、私のために用意されたキンバト。気をとりなおして、剥き始める。隣には、すごいピンセットとハサミを駆使し、薄皮とギリギリの戦いをしている編集長。「ここ攻めたら破れますけど、どうしますか？」と事務局長に相談なさっている。ううう、私にはまだ無理なのでは…、と不安を抱えつつ作業を進めると、ギリギリの戦いどころかドバトより剥きやすく、2時間で終わってしまった。

何だか自分でも腑に落ちないが、上手に剥けたので満足、満足。

これは、私のスキルが高いからではなく、とても良い状態のキンバトを選んだ（というか残っていた）からだということが後に分かる。見た目ではほとんど判断できないため、良い状態のキンバトを担当できるかどうかは、日ごろの心がけ次第なんだそうである。私はこの原稿を書いている時点で3羽担当しただけだが、3羽とも非常に良い状態のものであった。やっぱりなあ。しかしいくら心がけが良いといっても、諸先輩方の仕上がりに比べるとまだまだ下々。上手になるためこれからもたくさん剥いて、いつの日か皆さんと「キンバト制覇！」の祝杯をあげたいです。

このように振り返ってみると、日記からものにじみ出ているとおり、最初の2羽くらいまではしんどくて、正直なところあまり楽しくなかった。多くの皆さんもそうではないかと思えます。しかし、そこでやめてしまうのは早計です。自分のどこがダメかに気づき、どうしたら上手になるのか考え始めたところから、楽しくなったのではないかと思います。最初は剥くのに必死すぎて羽根の模様を見る余裕すらありませんでしたが、近頃はようやく羽根の美しさや形態の面白さなどを思う存分観察し、堪能できるようにもなりました。鳥剥きはしたことないけどちょっと気になった鳥好き団員のみなさま、ぜひ一緒に楽しみましょう。

ホネホネ団通信 19号
あかしばかりたぐるエッセイの校生 子三輪さん：手先が器用な新団員

ホネホネ 鳥の日 初体験

はじめまして、ホネホネ団の皆様、去年の11月に入団した新米団員の三輪です。記念すべき初寄稿が、まるで「初体験レポ兼懺悔」のような内容になってしまいました。しかし、せっかくの機会。素直に「はじめ」の気持ちを述べてみました。



2月24日曜日、はじめての「鳥剥き」の日。西表鳥類調査隊を含むベテランの方々になつた。鳥剥きを始める前に、学芸員のWさんによる模範演技を見学。サクサクと流れるような手さばきで行われる模範演技に、始終感動。丁寧なひとつひとつの行程の説明を聞きながら、要領が悪いせにメモ帳を持って来なかつたことを後悔。そのぶんしっかりと説明を聞けばいい、と思いつつ、こまめに写真を撮ったりメモをとったりしているのは、初体験の人よりもむしろすでに鳥剥きを経験済みの団員さんの方が多いということに気付く。これが何を意味するのか、後で思い知るようになる。



胸を高鳴らせながらふかふかしたお腹の毛をかき分けて、恐る恐るメスを入れる。鳥の皮膚は想像より薄い。タヌキやウサギを剥くのととは全く勝手が違うということは頭ではわかってはいたけれど、実際に取り掛かる段階になつてやっと自分の手のひらのなかでそれを

実感しはじめる。新たな「初体験」の前に、

入団試験の時と全く同じ精神状態に戻ってしまう。手際よく鳥剥きを進めはじめている団員さんたちの中で、平静を装おうとしながらも、「メスを入れる」というスタート地点からすでに口から心臓が出そうな状態だった。ゴールへの道順はちゃんとある。さつき聞いたばかりではないか。落ち着け、落ち着いたらできるはずじゃないか。ところで、ホウ酸はこのくらいの量でよかつたかな？ 多すぎたかもしれない。そうだ、トイレットペーパーも挟んでいかないと。こんな感じだったかな。これでは少ないんだ。そもそも、お腹に開けた穴の大きさはこれでよかつたのかな。ちよつと開きすぎたような…ひとつ手を動かすたびに起こる、工程と工程の合間の細事にばかり気を取られるはじめる。大事をなさんと欲せば小さな事を怠らず勤むべし、とはいえ小事に気を取られすぎて大局を見失ってしまうとは本末転倒で、気づけばいきなり剥く順序を間違えていた。これ以上コトを酷くしてはならん、と見せに行く。呆れられる。実演解説してくれたWさんに失礼なくらいにあんまりなミス、当然である。出だしから躓き、見せたり聞いたりするわりにその後も事態が改善しないので、とうとう見かねたのだろう。「ベテラン席」に移してもらふことになつた。



申し訳ない気持ちと、まだまだ浅い剥き経験のなかの様々な失敗の記憶が脳内でリフレインしはじめる。眼前の無防備なムクドリ

を凝視しつつ、今になって思うに情けないが

脳内が完全にホワイトアウト状態だったのだろう。最初に見て聞いた模範演技を思い出そうとするも、心臓の音にかき回されるようにとっ散らかってしまった脳みそからはきれいに取り出すこともままならなかつた。妙に自分の心臓の音ばかりよく聞こえた。なぜ、メスをひとつもとつていなかつたんだ。脳みそというメモ帳がいかにも信用出来ないものであるかということも忘れていたのか。ホネホネのみなさんは、それをよく知っているのだ。その「脳みそ」に輪をかけて自分の脳みそはいい加減だというのに。Nさんのびつしり書き込まれたノートを見たときに気づくべきだった。とはいえ、今そんな嘆きと後悔に浸つていてもコトは何も進まない。横に座らせてくれたSさんに素晴らしい持参アイテム（スパチュラ、アポロ11号でも使われていた鋏を彷彿とさせるニッパータイプの小さな鋏、等）を借り、逐字アドバイスも頂きながらじりじりと亀足で進み始める。



哺乳類を剥くときと大きく違うのは、鳥はけつして「開き」にしてはならないということだ。しかし、肩関節を外したり尾椎や気管を切り離そうとしたり奮闘しているうちに、どんどん切開した箇所が広がっていつていたのだろう。見事にばつかりと、「開き」同然の状態になつてしまつていた。ゴール地点がまた遠のいた気がした。今日がはじめての鳥の日だったみなさんも他の団員さんたちも仕事を終えて徐々に帰っていくなか、ご飯を食べ

るのも忘れて剥き続けていたのに、ペー

誰よりも遅かつた。SさんやWさんは今、何匹目を剥いているのだろうか？ 気づけば日は暮れていた。ペーパーの新人で残っているのは自分だけだった。タイムリミットがせまっている。輝く七つ道具やアドバイスを頂いていたのにもかかわらずこれほどまでにダメダメな「団員」は過去に存在したのだろうか。悔しさと罪悪感で手先の血の気がサーッと引く音が聞こえるようだった。そこにNさんが手を差し伸べてくれた。恐らく、工程と工程の間の細事に手間取られていることや、脳みそをすぐ察してくれたのだろう。丁寧な解説を交えながら、あくまで自分の手でやらせてくれる絶妙なバランスでテコ入れをしてくれた。そこからはあつという間だった。100%自分の手でやつたとは冗談でも言えない結果だが、大幅に時間をオーバーしてWさんからなんとかかんとか完成の許可を頂くことができた。番号の描かれた新聞紙にまかれたムクドリは、心なしか「じんやり」していて、そのムクドリに申し訳なくて胸がチクリと傷んだ。



今振り返っても本当に散々なコトばかりで褒められるようなところなんて一つも無かつたと思う。けれど図々しくも帰り道、充実感を感じていた。ダメダメで失敗ばかりだっただけに、ホネホネ団の暖かさが身に染みだ。ホウ酸を皮の内側につけ過ぎたら乾燥しすぎてしわしわになつてしまうこと、鳥の薄い皮

ほね本紹介

「The Unfeathered Bird」

著者 Katrina van Grouw

出版社 Princeton Univ Pr (2013/1/29)

ISBN-10 0691151342

ISBN-13 978-0691151342

鳥好きホネ好きの方に

見た瞬間これは要る!!と思った本。特にアートな方に超オススメです!! ずっしりと重いハードカバーの洋書で、クリーム色の紙で約300ページくらいです。殆どが白黒印刷で、たまにカラー。字よりもイラストメインの本で、骨格や筋肉のイラストがたくさん載っています。



鉛筆を掴んでるインコの筋肉図、カモの気管、ペンギンの舌、カワセミの足のスケッチなど、いろんなポーズをとった骨格や筋肉が全身で描かれていたり、頭骨、足、舌などのパーツは拡大して描いてあります。描かれている鳥の種類も多くて資料としても使えるし、ホネ好きなら眺めているだけでも充分楽しめると思います!



字は全部英語なので、私にはなんて書いて

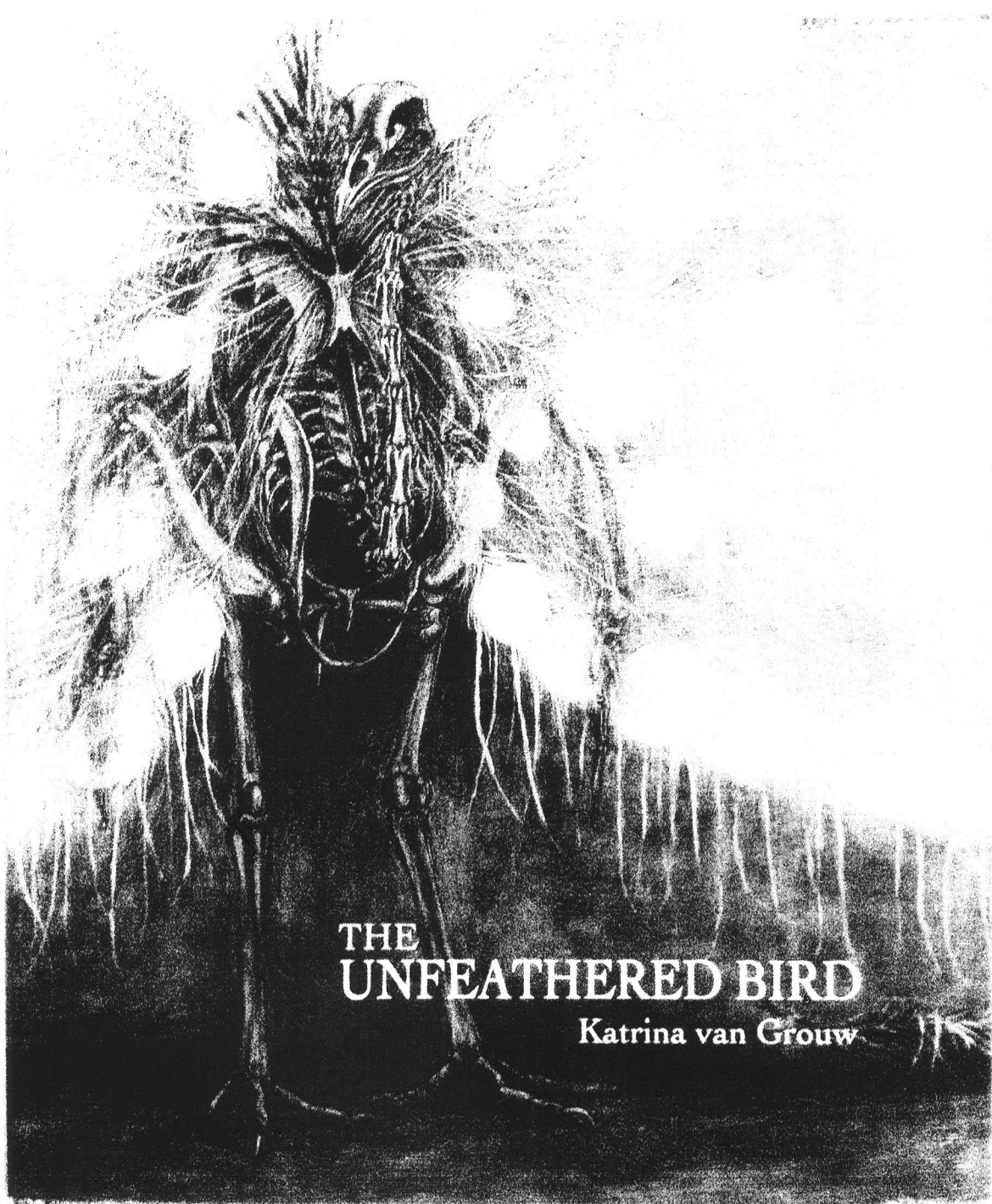
るかちゃんと読めないのが残念... けど、この本を見ていると鳥の英名が覚えられるかな...?と密かに期待してます。



個人的には、家禽のページがオススメ。品種ごとに羽をむしった鳥肌状態の全身イラストが描かれていて、普段見比べても羽毛で見えない姿を比較できて、凄く参考になります。

鳥好き、ホネ好き、には一家に一冊レベルでオススメ本です。

浜口とり



THE UNFEATHERED BIRD

Katrina van Grouw

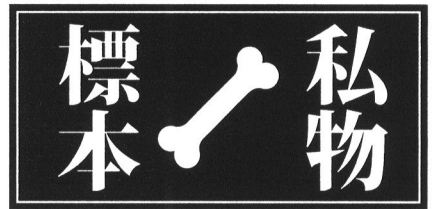
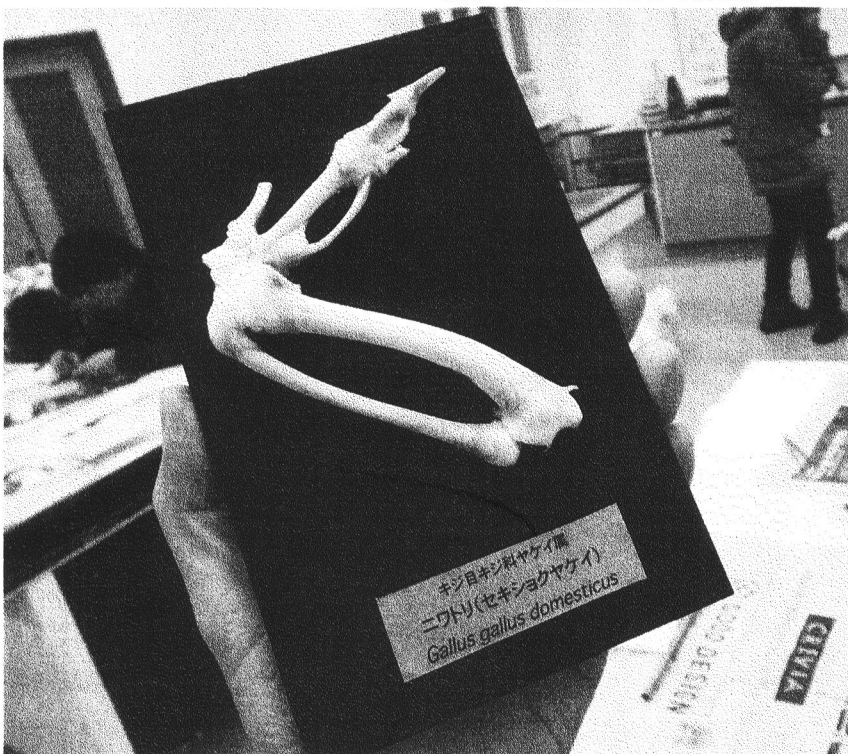
■かんたん骨格標本の作り方■

針金などで支えなくても、肉きれいにをとったホネをかわかして、少し残した筋や筋肉を接着剤代わりにして、骨格標本をつくることができます。はじめてホネの標本を作る時には、ホネをバラバラにするとたいへんです。ホネをつなげたまま処理することで、元にもどす手間を省かれます。この方法は、カエルなどの両生類、ヘビなど爬虫類、小型のほ乳類や鳥、中型以下のほ乳類の尾や足先などにも応用できます。

- 1：手羽先をよくさわってホネの位置をたしかめてから、皮をむきます。切れ込みを入れて引っぱってみてください。ただし、関節の部分をはずさないように注意を。
- 2：お肉をどんどん取り除きます。外れたホネがあっても捨てないでね。お肉はおいしくいただくので、お皿に集めて下さい。
- 3：重曹で弱アルカリにした湯の中で軽くゆで、さらに肉や腱を外します。
- 4：肉がだいたい取れたら、名札と一緒にネットに入れて、パイプ洗浄剤を入れた水につけて、残った肉をとかします。(約40分～1時間)
- 5：待ち時間の間にお弁当。さっきとったお肉もおいしくいただきますよ。
- 6：肉が透きとおったゴムのようなになったらOK。洗浄剤のにおいがなくなるまで水で洗ってから、毛抜き、歯ブラシ、ピンセットなどで残りの肉をきれいに取り除きます。多少、肉などが残っていても乾燥すると縮んで目立たなくなるのであまり神経質にならなくても大丈夫です。
- 7：漂白剤（過酸化水素水）に50分～1時間つけます。家で作る場合はオキシドールで。漂白のしすぎはホネを痛めるので注意。オキシドールなら約1日～2日間が目安。
- 8：待ち時間の間に、ホネを飾り付ける板を黒く塗りましょう。
- 7：きれいに漂白できたら取り出して流水でしっかり水洗。ホネについて水分をふき取り、できるだけ乾かして、板に貼付けます。

帰ってからも、風通しの良いところで陰干し。乾燥したらできあがり！

右：完成した手羽先の骨格標本



ホネホネ団には私物の標本を所有している方が多数いると思われます。拾ったホネや、組み立てたりもらったホネ、ホネにする予定の死体など。さまざまな私物標本も紹介していきたいと思います。

鶏の手羽先標本をつくらう

ホネホネ団ではワークショップの出勤を通じて、標本作りの普及活動も行っています。そこで今回は目先を変えて、私物標本の作り方を紹介します。ホネの標本では最も入手し易くて、簡単に作ることができる二ワトリの手羽先を材料にします。ワークショップでは

朝の10時くらいから開始して、夕方の4時頃までには完成してきます。小学校低学年からできる骨格標本作りですが、侮ってはいけません。なかなか奥が深く、奇麗に仕上げるのは意外と難しいですよ。

佐竹

<おすすめの作業服>
エプロン（又は白衣など）、手ふきタオル、軍手または布手袋、台所用の使い捨ての薄手の手袋

<その他、必要なもの>

- ・手羽先 一人1コ
- ・過酸化水素水・パイプスルー
- ・重曹・メスやデザインカッター
- ・ピンセット、魚の骨抜き
- ・ウエス、ぼろ布・排水溝ネット
- ・ラミネートパウチした名札
- ・標本ラベル
- ・八ガキくらいの大きさの板
- ・板を塗る黒い絵具かラッカースプレー
- ・作ったホネを持って帰る大きめの袋

活動報告

豊中高校土曜セミナー 「カエルの骨格標本作り」

2013年1月19日に大阪の豊中高校でアフリカツメガエルの骨格標本作りの講師をしてきました。豊中高校はスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に認定されており、土曜セミナーはその一環です。講師には団長、浜口トリ団員も含まれており、団長のいる前で生徒さんに解剖の手ほどきをするのは緊張しました。



なにわホネホネ団の説明をしたあと、アフリカツメガエルの外部の観察、皮剥き、筋肉の観察、内臓分け、肉取り、湯通し、細かい肉取り、パイプスルーと通常通りの手順で進めました。使用した道具は解剖バサミ、バット、ピンセット、パイプスルーと、これも特筆するほどの物はありません。気をつけることとしては、アフリカツメガエルは同じく水棲のウシガエルに比べ身体が小さく、肉取りがしにくいこと。特に頭の部分は非常に肉取りがしにくいことです。骨格標本作製初心者にいきなりアフリカツメガエルは避けたほうがいいかもしれません。



パイプスルーに漬けている間に、団長の講演会がありました。団長の生い立ちを紹介後、骨クイズです。博物館の標本をお借りしてき

て、その持ち主(?)がなんの動物かを当ててもらいます。アフリクイやアシカなどもありなかなか難しいクイズでした。正解数が最も多かった生徒さんには団長からホネホネ探検隊がプレゼントされました。羨ましいですね。



パイプスルーから出し、水洗いでぬめりをとったらクリーニングしてポーシングです。発泡スチロールにマチ針とめてもらいました。実験室の水槽で生体がいたので、生きているときに近い形でポーシングしてもらったのですが、なかなか苦戦してしまいました。



朝の8時半ごろから初めて昼の12時に終わったので、えらくギューギュー詰めたスケジュールやったと思います。教訓、時間が無いときは解剖はしない。



最大の
おどろきは
用意された
アフリカツメガエルが
生きてたこと
だった。

活動報告

芦東山記念館 「なにわホネホネ団」 「コラボワークショップ」

2013年3月23日に石手県一関市にある芦東山(あしとうざん)記念館にて「はりはり化石はりえ」を行ってきました。これは2012年冬の国立科学博物館とのコラボワークショップの関係で科博をおして記念館から遠征団に依頼が来たものです。今回は大勢で遠征することが難しかったため、コンテナの提供、現地での指導、地元大学生(岩手大生)との連絡調整、チラシ作成での広報サポートといった内容での遠征となりました。大阪からはニジのみがスタッフとして派遣されました。博物館で遠征団の時と同じように準備して送って、橘さんと団長、浜口トリ団員にはパンフを作ってもらいとバタバタ準備して一関に出発です。



う。特に貼り絵の場合のりや紙が手の届く範囲にあるので、常に視界に入れとく必要があります。スタッフは1人遊撃部隊の方が良いと思います。

また今回は今までの遠征団と違い、有料入館でした。有料入館で90名の人がワークショップを目当てに博物館に来るなんてすごい! 地元の幼稚園や小学校にチラシの配布をされていたのと、新聞やラジオでも広報があったようです。記念館の方は、地元大学の学生の活躍を目の当たりにできてプラスになったとおっしゃっていました。天井を渡す旗や、飾りなどもとても好評でした。我がコトのように嬉しいです。(なおこの原稿の頭の部分は、団長のメールを一部転載しています。ご容赦ください)



当日は乳幼児を含む90名以上が来館し、大変盛況なワークショップとなりました。とうか乳幼児が怖い! ハイハイしながら机に突進するし、窓バンバン叩くし、なんか口に含まれるし... 普段のワークショップで親御さんが乳幼児を連れてくることは少ないだけにいい経験になりました。もし乳幼児がいる場合は絶対に目を離さないようにしましよ



2013年1月20日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～22時

担当：団長、副団長、事務局長

参加者数：30名

(内、見学者8名 ↓新人団4名)

内容：タヌキ4体、テン2体、ネコ1体、アライグマ1体、イノシシ1体、カイウサギ1体の皮剥ぎ。タヌキ4体、アナグマ1体、テン2体、ネコ1体、アライグマ2体、イノシシ頭1体の皮なめし。
備考：皮剥ぎ大会。今年から通常活動日は原則として、鳥は処理しないことに。実質、哺乳類の日。

2013年1月21日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～21時

担当：副団長、事務局長

参加者数：9名

(内、見学者0名 ↓新人団なし)

内容：キンバト6体、シロハラ2体、アカハ

ラ1体、ツグミ1体、メジロ1体、ハシボソガラス1体の皮剥ぎ。

備考：鳥の日。西表島鳥類調査隊の活動開始。

2013年2月9日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～22時15分

担当：団長、事務局長

参加者数：22名

(内、見学者3名 ↓新人団1名)

内容：タヌキ4体、アライグマ3体、アナグマ1体の皮剥ぎ。

備考：とにかく中型哺乳類の皮剥ぎ

2013年2月24日

場所：大阪市立自然史博物館 旧実習室

時間：10時～19時10分

担当：事務局長

参加者数：17名

(内、見学者4名 ↓新人団なし)

内容：キンバト5体、キジバト3体、アオバズク1体、ヒヨドリ3体、シロハラ2体、ツグミ1体、メジロ1体、スズメ1体、ムクドリ1体の皮剥ぎ。

備考：鳥の日。西表島鳥類調査隊の活動2回目。

2013年3月17日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～20時45分

担当：団長、副団長、事務局長

参加者数：23名

(内、見学者22名 ↓新人団3名)
内容：ベネットアカクビワラビー1体、ノウサギ6体、ヌートリア4体の皮剥ぎ。ヌートリア4体、アライグマ2体、イノシシ2体、キツネ1体の皮の処理。ラッコの皮、ドバトの骨の処理。

備考：ウサギの日。入団試験はヌートリア。

2013年3月31日

場所：大阪市立自然史博物館 旧実習室

時間：10時～20時

担当：事務局長

参加者数：11名

(内、見学者0名 ↓新人団なし)

内容：オオバン1体、キンバト5体、キジバト1体、ドバト1体、ヒヨドリ3体、シロハラ1体、ツグミ1体、キビタキ1体、ムクドリ1体の皮剥ぎ。

備考：鳥の日。西表島鳥類調査隊の活動3回目。久しぶりに西表島鳥類調査隊に新隊員が加わった。

2013年4月14日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～20時45分

担当：団長、副団長、事務局長

参加者数：52名

(内、見学者22名 ↓新人団4名)

内容：イタチ11体(たぶんチョウセンイタチ9体、ニホンイタチ2体)、テン4体、アナグマ1体、タヌキ1体、ネコ1体、ハクビシ1体の皮剥ぎ。ニホンジカ1体、ベネット

アカクビワラビー1体、ラッコの皮の処理。
備考：イタチの日。

2013年4月15日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～22時半

担当：団長、副団長、事務局長

参加者数：14名

(内、見学者1名 ↓新人団なし)

内容：キンバト11体、ドバト1体、ヤマドリ1体、ホシハジロ1体、オクイナ1体、アオバズク1体、シロハラ1体、オオルリ1体、カワラヒワ1体、ハシボソガラス1体、ハシブトガラス1体の皮剥ぎ。

備考：鳥の日。西表島鳥類調査隊の活動4回目。

2013年4月21日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～19時

担当：団長、事務局長

参加者数：9名

(内、見学者0名 ↓新人団なし)

内容：キンバト4体、コサギ1体、ヤマシギ1体、カワセミ1体、ハシボソガラス1体、ヒヨドリ1体、ウグイス1体、ムクドリ1体、ハクセキレイ1体の皮剥ぎ。

備考：なぜか暇になったので臨時の鳥の日。西表島鳥類調査隊の活動5回目。

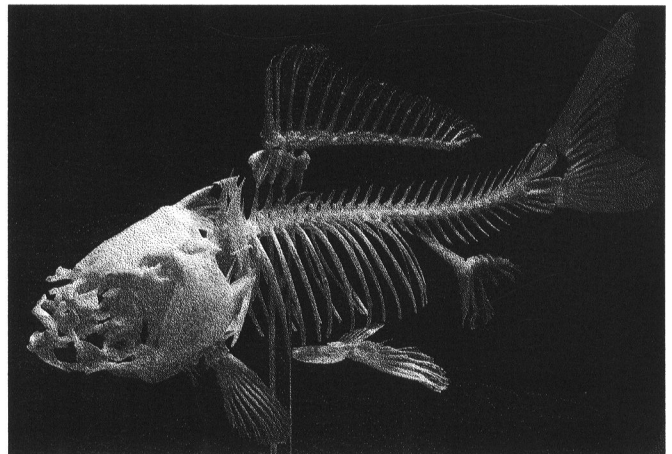
阿久津 さん 「となりの人間国宝さん」 認定おめでとう！

金魚さんこと阿久津さんが「となりの人間国宝さん」で紹介されました。
番組の中ではホネホネ団の紹介もたっぷりしてくれました。

右：おなじみのステッカー



右：ホネ金魚



右：大きいので屋外で乾燥中のキリンの皮。寝ている人は比較の為に標本ではない。



2013年1月～4月に入団試験に合格した方々です。

新入団員紹介

- 団員 No.237 三好 さん ●団員 No.238 孝治 さん ●団員 No.239 加納 さん
- 団員 No.240 佐藤 さん ●団員 No.241 小森 さん ●団員 No.242 三枝 さん
- 団員 No.243 鈴木 さん ●団員 No.244 川上 さん ●団員 No.245 長谷川 さん
- 団員 No.246 城井 さん ●団員 No.247 日暮 さん ●団員 No.248 河越 さん

お名前： 孝治

3DCGで動物や人体を作、て勉強しています。

お名前： 佐藤

神奈川県在住です。がんばって通いたいと思っております。
骨の動物の初心者ですが、これから頑張りたいです。
大小の動物の名前や、旅行のことが好きです。
(最近では昆虫が好き...)
<http://d.hatena.ne.jp/mereco>
よろしくお願いします!!

お名前： 加納

大阪出身 大卒1回生です。
大卒では理学部で生物学を専攻しようと思っております。
今日はほしごうル条1回生です。
これからよろしくお願いします。

お名前： 三好

広島住みの高卒です。
あと1年勉強をがんばって大学生にならば積極的に活動したいと思っております。
今日はとても楽しかったです。
合格ありがとうございます。
よろしくお願いします。

お名前： 三枝

ヌートリアの皮むきで合格しました。これからよろしくお願いします。

好きな動物はヘビとカメとカウウリです。



お名前： 川上

鹿児島県の環境学習施設で、70アのガイドツアーとか、ワークショップとかやります。
ヌートリアおきました!(東は見たのも初めて...)
大阪にくるときは、ホネ団にステッカーあわせて遊びに来ます!
ちなみに、アヒルキモチなので、毛玉に当たるとは念のためマスクしています。

お名前： 鈴木

4月から帯広畜産大2年になります。
畜大でホネホネ団を結成するため、頑張ります！
どんな動物でも大好きです！
よろしくお願いします。

お名前： 小森

好きな動物は もぐら です。
神奈川がうまいました。よろしくお願ひします。



お名前： 城井

動物の進化にまつわる
骨格、筋肉に関する話等が大好きです。
話、筋肉の動きにも興味があります。
どうぞよろしくお願ひします。

お名前： 日暮

日暮は「ひぐらし」と読みます。
動物の筋と骨に興味があります。
ちよくちよく参加させて
いただきたいと思ひますので、
よろしくお願ひします。

お名前： 長谷川

大阪市内でアパレルのデザイナーを
しております。
恐竜の骨が大好きで、
学生時代に人体の骨をテーマにした
服を作りました。
ホネホネ団員のおみなさんは明るくて
優しい方達ばかりなので、入団できて
うれしいです！ 宜しくお願ひします！

お名前： 三河越

アット好きな主婦ニートです。
自分とこの子を骨で残したく
て今を出したのがはじまり
です。
邪魔と言われぬよう
腕を磨いていきます。
=合流の主。

博物館の楽しみはホネだけじゃない!!

友の会に入ろう

ナイトミュージアム



観察会

バックヤードツアー

合宿!!



島にやってくる

会員限定の行事も

たくさん!!

入って損なし!



1年間3000円で

家族全員

楽しめます!!



取材記録と

遠征報告

8～10日 東北遠征 福島県いわき市 アクアマリンふくしま「海辺の環境フォーラム」に参加、一日ワークショップ出席。※水族館「アクアマリンふくしま」の応援企画

参加者：団長、風花団員、阿久津団員、山田ニジ団員、乾団員

参加者：団員以外：五月女さん、佐久間大輔さん（大阪市立自然史博物館）、村田さん

【取材】小中学生向けの週刊新聞「読売KODOMO新聞」より取材。見聞き特集ページでどどんと掲載。

2012年7月



28日 山口県周南市 徳山動物園で足形取りワークショップ。

【参加者】団長

2012年9月

9日 東京都小金井市「青少年のための科学の祭典2012 小金井大会」にてホネのワークショップ。頭骨の観察とストラップ作り。

【参加者】団長、山田ニジ団員、浜口とり団員、阿久津 団員

【取材】NHK大阪放送局番組制作部より、通常活動日に取材。ホネホネ団の番組の企画を立ててくれているらしい。

【取材】「SUPER」編集部より取材。大阪で活躍するクリエイターを、代表的な仕事や考え、ライフスタイルなどさまざまな角度から紹介し、そのスーパードット（SUPER）素晴らしいクリエイティブを取り上げるフリーペーパーだそう。ホネホネ団でクリエイター集団でもあるらしい。大阪市からの予算で作られていた雑誌でしたが、残念ながら2013年春に休刊に「な」されてしまいました。

2012年10月
13～14日 東北遠征 宮城県南三陸町戸倉地区、歌津地区にて南三陸町自然環境活用セン

海辺の環境教育フォーラム 2012 in ふくしま

“現在の海”をしっかりと見つめ
“これからの海”との関係を考え、語り合うために
いま、ふくしまに集まってみませんか？

68. **World Oceans Day**
心に海をとりもどそう
サンセット BBQ、水産博前でジュア泊（観望者）……など
さまざまなオプションプログラム準備中!!

69. **シンポジウム・ワークショップ**
いま、ふくしまで考える
海とボクたちの未来
基調講演、報告、ワークショップ
冷静に考え、熱く語り、いろいろな発想に出会う…
海辺の環境教育フォーラムの根幹ともいえる日。

610. **オープンデー**
こども海の日
アクアマリンに集合セヨ!
とっておきの海のプログラムで
福島のこどもたちに海のすばらしさを伝えよう!
（一般来館者対象にワークショップを実施）
沖縄を代表するミュージシャン・古謝美佐子&佐原一哉のライブ

開催日 / 2012年6月8日(金)～6月10日(日) 開催場所 / アクアマリンふくしま
主催 / アクアマリンふくしま 海辺の環境教育フォーラム2012実行委員会
参加費 / 8500円 学生6500円 (3日連泊、アクアマリンふくしま入館料含む) 連絡先 / 海辺の環境教育フォーラム umibef@gmail.com

http://interpreter.ne.jp/umibe/

2012 青少年のための 科学の祭典

東京大学in小金井 参加費無料

開催日時: 2012年9月9日(日)
開会式 9:30 開場 10:00 - 16:30
会場: 東京学芸大学 小金井市貫井北町4-1-1
JR武蔵小金井駅北口から「⑤小平団地」行きバス「学芸大学正門」下車2分

小中高校生向け特別講演会
9月9日12:00～12:50
フジテレビ「ほこ×たて」に出演されている海川洋二先生が実験を交えておもしろい講演をしていただきます。

主催: 2012「青少年のための科学の祭典」東京大学in小金井実行委員会 / 東京学芸大学 / 小金井市 / 小金井市教育委員会 / 国際ロブテミス東京-小金井 / (公財) 日本科学技術振興財団 / 科学技術館 / 共催: 東京理科大学 / 法政大学 / (独) 情報通信研究機構 / 小金井市商工会 / NPO法人ガリレオ工房 / 多摩信用金庫 / (公) 武蔵野法人会 / (株) 読書センター / (株) 読書センター / (株) ムロン精工 / (有) 読木ターナー / つばき石材(株) / つばき石材流通(株) / ニュー / (有) 谷山商事 / フラック募集代理店利田山 / 昭和信用金庫東小金井支店 / 総合建設(株) / 探検隊 / 鹿島テクノリサーチ / 明治安田生命 / 小金井警察署 / 公文教育研究会 / 小金井本町教室 / 前原町教室 / 緑町4丁目教室 / 緑町南教室 / 中央教室 / 小金井駅前教室 / 小金井中央(株) / (株) クレオ

後援: 東京都教育委員会 / 国分寺市教育委員会 / 小平市教育委員会 / 府中市教育委員会 / 東京電機大学中学校・高等学校 / 中央大学附属中学校・高等学校 / 小金井市立小中学校PTA連合会 / 小金井市医師会 / 東京都小金井農科医師会 / 東京小金井ロータリークラブ / 東京小金井さくらクラブ / 東京小金井つばきクラブ / 小金井青年会議所 / NPO法人こがねいっしょ / 文部科学省 / 全国科学館連携協議会 / 全国科学博物館協議会 / NHK / 日本物理教育学会 / 日本生物教育学会 / 日本地学教育学会 / 日本地質教育学会 / 日本地質学会 / 日本生物物理学会 / (社) 日本物理学会 / (社) 応用物理学会 / (社) 日本化学会 / (社) 日本機械学会 / (社) 日本アクト協会 / (社) 日本理科学教育振興協会 / (財) 日本私学教育研究所 / (社) 日本動物学会 / (社) 日本動物学会 / (社) 日本天文学会 / (社) 日本工学会 / (社) 電気学会 / 協力: 小金井警察署 / 小金井消防署 / 小金井市消防団

問合せ先:
2012 青少年のための科学の祭典東京大学in小金井事務局
TEL: 090-7944-1900
E-mail: ysf2012tokyo_k@yahoo.co.jp
URL: http://kagakunosaiten.koganei-net.com/

おながい
■幼児や低学年のお子さんには保護者が同伴してください
■おぼしめしはお願いいたします
■会場は禁煙です
■車での来場はご遠慮ください
※天候等で中止する場合はホームページでお知らせします。

南三陸町自然環境活用センター（志津川ネイチャーセンター）復活支援プロジェクト

作って、体験！遊んで・学ぼう！

南三陸町 子ども ワークショップ 2012

しぜんし 自然史

10月13日(土)
歌津 平成の森アリーナ

10月14日(日)
戸倉 漁協産直&体験施設 (仮称)

12:30受付開始 **13:00~16:00** **入場無料**

民宿青島荘跡地に
10月 OPEN!

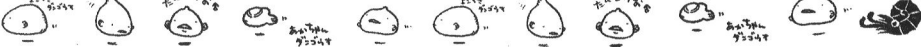
南三陸の海と森には、たくさんの生きものがいっぱい！
 海にはまんまるダンゴウオ、かわいいクチバシカジカ。
 空にはイヌワシ、森にはカモシカ。アンモナイトにウタツギヨリユウ、
 貝化石モノティス…土の下には、貴重な化石もたくさんかくれてる。
 そんな自然のヒミツを研究するのが大好きなスタッフが、
 南三陸の生きものと自然のふしぎを楽しむ子どもイベントをひらくよ。
 化石のレプリカをつくる？サクになってあそんじゃう？
 カラフル魚拓でアートする？それとも…
 キミだけの宝ものを見つけに、あそびにきてね！

おたすけスタッフ募集中！
 化石、生きもの、そして
 子どもが好きな人集まれ！
 当日スタッフ大募集！
 (藤田080-4339-8823まで
 お問い合わせ下さい)



14日の戸倉会場は、民宿青島荘の跡地にあります。国道398号沿いにある「青島荘」の看板が目印です。

共催：南三陸ネイチャーセンター友の会・
 NPO法人 大阪自然史博物館・NPO法人 海の自然史研究所(代表)
 後援：南三陸町教育委員会、南三陸町観光協会、宮城県漁業協同組合志津川支所
協力：東北大学総合学術博物館・大阪市立自然史博物館・イヌワシの森倶楽部・南三陸ふるさと研究会・Marble Workshop・NTTコミュニケーション科学基礎研究所・水辺の教育メディア研究会・saveMLAK・西日本自然史系博物館スタッフ有志・なわホネホネ団・小田隆(成安造形大学)・しがNPOセンター



2012年11月
 23~25日 鳥取県遠征 水ノ山自然ふれあい館響の森

【取材】毎日新聞が発行のミニコミ「マチゴト」
 豊中・池田版より取材。副団長と団長が作っていた五月山動物園のウォンバットの骨格標本作りについて。

【取材】南三陸町でのワークショップが、地元のコミコミ仙北郷土タイムス南三陸版 Vol.1005 ほかに掲載。

【参加者】団長、山田ニジ団員、浜口とり団員、小田 団員、阿久津 団員、佐竹 団員

【内容】公開講座「鶏の頭骨標本を作る」でホネづくり。26日は学生向けに同じ内容で開催。

20日、26日 滋賀県大津市 成安造形大学

【内容】4団体合同で「南三陸子ども自然史ワークショップ」開催。参加者2日間で200名強と大盛況！

【参加者：団員】 団長、山田ニジ団員、浜口とり団員、前田 団員、大矢 団員、香川 団員、藤田 大団員、阿久津 団員、河原 団員、河原、さんホネホネ応援団長、西澤 さん・小川 さん(東京遠征お手伝いチーム)、釋 さん(大阪市立自然史博物館)

【内容】 4団体合同で「南三陸子ども自然史ワークショップ」開催。参加者2日間で200名強と大盛況！

ター(志津川ネイチャーセンター)、歌津魚竜館の応援企画

氷ノ山ネイチャーフェスティバル

秋の氷ノ山に、県内外から自然系の施設団体が大集合!! 遊びにおいでよ!! 雪の森へ!

11月23日(土) 25日(日)の3日間

10:00~15:00(ただし、25日は14:30まで)

◆主催 氷ノ山自然ふれあいセンター 協賛 鳥取県教育委員会・鳥取県環境教育センター

カエル工房 ワークショップ

カエルを紙で造って、カエルを動かす工作!

10月23日 10:30~12:30

10月25日 10:30~12:30

10月23日 10:30~12:30

10月25日 10:30~12:30

特別講演 なにわホネホネ団の活動

～本団制作ボランティアと大船渡自然史博物館～

11月23日 10:30~12:30 11月25日 10:30~12:30

子ども研究発表会

発表KIDS大募集!!

11月23日 10:30~12:30

11月25日 10:30~12:30

11月23日 10:30~12:30

11月25日 10:30~12:30

【参加者】山田ニジ団員、浜口とり団員、団長、久保 団員、乾団員夫妻。米澤副団長も別団体「人とクマをつなぐ会」で出展。

【内容】イベント「氷ノ山ネイチャーフェス」に出展。鳥取県内の自然史関係な人たちを集めてのフェスのミニ版。ブースでのホネガエルのハンコパズル、豚足のバラホネを組立ててくっつけるワークショップ、団長による講演。

2012年12月

15~16日 東北遠征 岩手県陸前高田市、大船渡市にて陸前高田市立博物館、大船渡市立博物館の応援企画。

【参加者：団員】団長、米澤副団長、岩佐団員、浜口とり団員、太田 団員、山田虹団員、橘 団員、阿久津 団員、西澤 さん・小川 さん(東京遠征お手伝いチーム)、玉置 さん、佐久間大輔さん(大阪市立自然史博物館)、秀瀬 さん(あくあひあ芥川)、向井 さん(東北大学)、坂本 さん(伊丹市昆虫館)、河島 さん(国立民族学博物館)、川村 さん、伊藤 さん・舛谷 さん・由利 さん(岩手大学自然史探偵団)、千田 さん・鈴木 さん(岩手県立高田高校)、山内 さん(岩手県山田町生涯学習課)・西里 さん(あそび ma・senka)、本多文人館長。

震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム陸前高田

作ってあそぼう・子どもワークショップ

博物館とあそぼ!

おひさしぶり! 陸前高田市立博物館のせき坊だよ。あそびにきてね!

参加費 無料

2012年12月15日(土)

12:00~16:00 (11:30受付開始)

会場 ふるさとセンター(小友コミセン)

〒029-2207 岩手県陸前高田市小友町字猪森74-1

当日連絡先 090-2705-7269 (佐久間)

nishizawa@mus-nh.city.osaka.jp

06-6697-6262 (大阪自然史センター 西澤)

主催: 陸前高田市立博物館・国立科学博物館
企画・運営: なにわホネホネ団+NPO法人大阪自然史センター
後援: 陸前高田市教育委員会
協力: 大田市立自然史博物館、市川緑地博物館、あくあひ芥川、西日本自然史系博物館、スタッフ有志、奈良県立奈良高等学校、小田 隆 (成安造形大学)、株式会社 ACTOW

及川甲子さん・熊谷賢さん・熊谷龍之介さん・後藤悦子さん・砂田比左男さん・鈴木綾さん・松田あやさん・佐藤静代さん・田村敏さん(陸前高田市立博物館)。西日本からのメンバーだけでなく、半数以上が地元から! 総勢32名という豪華なスタッフ陣でした。

【内容】第2回目の陸前高田と大船渡。昨年は国立科学博物館の「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム」事業の一環として開催。参加者は陸前高田市75名、大船渡298名と、2日間で400人近い来場者もむかえることができました。どちらの会場もリピーターがちゃんと来てくれていて、来年もあるんですか?ときかれたのもたいへんうれしかったです。

陸前高田市立博物館の熊谷学芸員から「いまはどうしても標本レスキューが主になつて、通常の博物館活動が行えないでいる状況のなかで、こうして普及行事ができた事はスタッフのモチベーションにもつながる」という主旨のお言葉をいただき、とてもありがたかったです。そして、去年、今年と一緒に行事をやってきて、次はこういうプログラムをしよう、あんなこともしたいね、と話せる関係性ができたことが、今回の収穫でした。「何か思いついたときに、数に入れてもらえる」のが、遠征団をはじめたころの目標だったからです。

大船渡市立博物館館長の金野良一館長からはメッセージをいただいています。

「体験！肉食恐竜VS草食恐竜」子どもワークショップを大盛況で終えることができました。今度もまたホネホネ団スタッフのバイタリティーと手際のおかげ、そして笑顔に、感心と感謝の一日でした。参加した子どもたちもとても喜んでいました。イベントブースに順番待ちをする親子連れの行列、館内に響く子どもたちの歓声に、私は冷静をよそおいながらも心の中では欣喜雀躍でした。イベント参加者は298名、そして他の恐竜見学の入館者を含めると、合計で373名の入館者でした。イベントを大成功にさせていただき、本当にありがとうございました。関係者の皆さまにもよろしくお伝えください。」

21ページに続く

はくぶかん 震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムin陸前高田

博物館とあそぼ!

作ってあそぼう・子どもワークショップ

2012年 12月15日(土)

会場:ふるさとセンター (小友コミセン)

〒029-2207岩手県陸前高田市小友町字猪森74-1

●当日連絡先 090-2705-7269 (佐久間)

●13日までのお問い合わせ nishizawa@mus-nh.city.osaka.jp
 合わせはこちら⇒ 06-6697-6262 (大阪自然史センター 西澤)

●12:00~16:00 (11:30受付開始 15:30まで)

参加費 無料

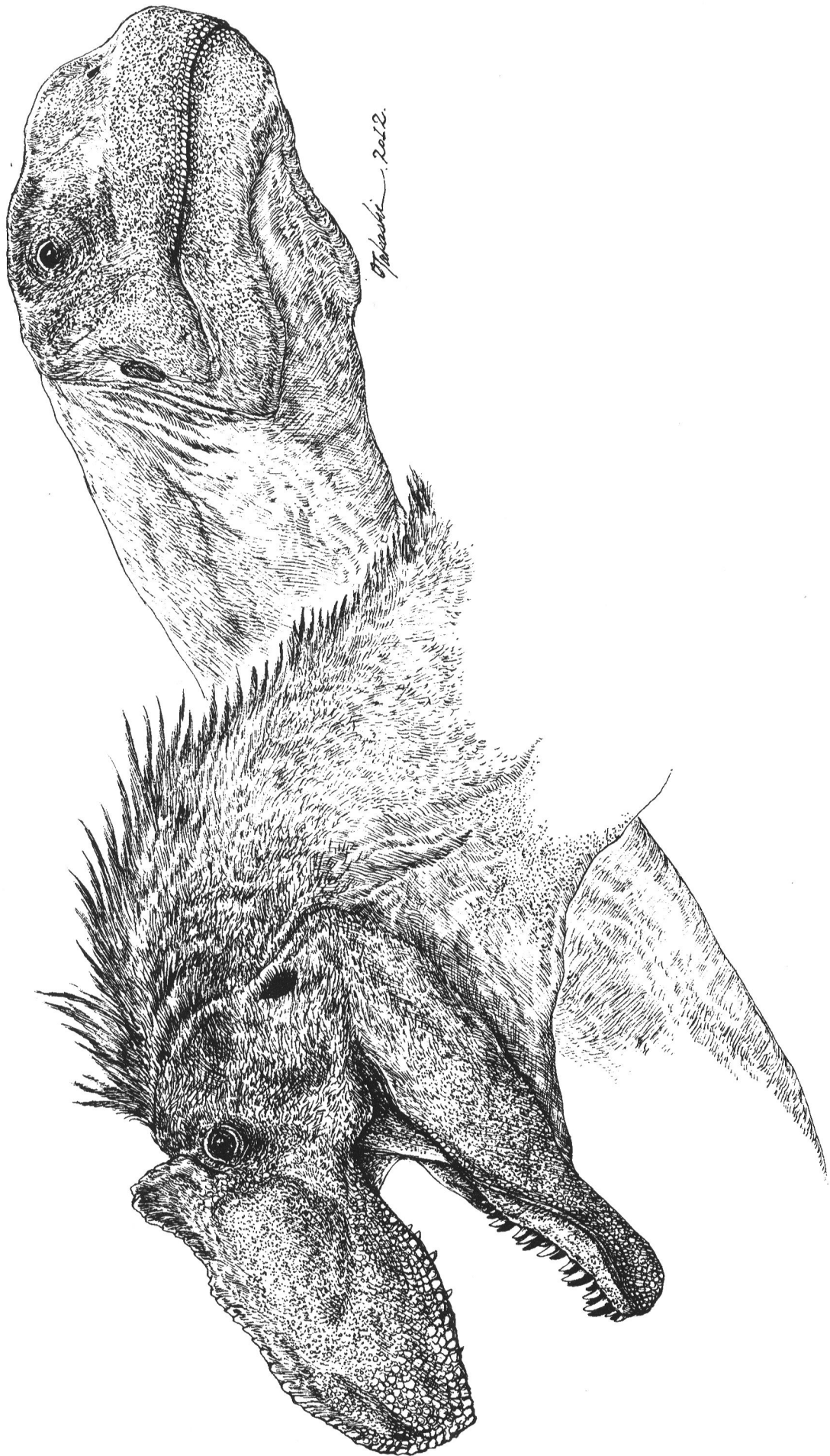
こんなプログラムがあるよ

- アロサウルスのクリスマスカード**
今年、高田にやってきたカッコいいアロサウルスのホネ。生きていたときはどんなかおだったのかな?色ぬりしたら「ものしりカード」といっしょにパチン。恐竜好きのキミに おすすめ!
※今回は、ホネは来ません
- きらきら☆松ぼっくりツリー**
松ぼっくりって、どうやってできるのか知ってる?高田にある、ゆうめいなマツのお話をききながら、ちっちゃな手づくりツリーをつくろう。
- 化石レプリカストラップ**
ほんもののアンモナイトからとった型に、べたべた色ぬり。…自分だけの化石ストラップのできあがり!
- キッズ☆コーナー**
絵本や折り紙で自由にあそべるスペース。大きな恐竜ぬいぐるみがおむかえします。小さなお子さんがいる方も、どうぞ遊びにきてくださいね。
- むかしの岩手の貝あそびコーナー**
鳥羽源藏(とばげんぞう)さんは、明治~戦前にかつやくした、ここ、小友町出身の学者さん。源藏先生が80年前にきろくした、気仙地方の子どもの貝あそびコーナーがでまよ。キミもちょうせん!
- はりはり・はり絵化石カレンダー**
日本初の恐竜化石・モシリユウ、総りたてほやほや・久慈のヨクリユウ、そしてアンモナイト。色紙をちぎってはりつけてね。
- 応援してね! 市立博物館コーナー**
旧・生出小学校におひっこした博物館。どろのなからあつめてきた、みんなのだいじなたからものを、いっしょうけんめいきれいにしているよ。どんなお仕事があるのかな?今は何をしているのかな?せき坊がしょうかいするよ。

みんなでできねまってるよ!

主催: 陸前高田市立博物館・国立科学博物館
 企画: なにわホネホネ団+NPO法人大阪自然史センター
 後援: 陸前高田市教育委員会
 協力: 大阪市立自然史博物館、芥川緑地資料館 あくあびあ芥川、西日本自然史系博物館スタッフ有志、奈良県立奈良高等学校、小田 隆(成安造形大学)、株式会社 ACTOW
 震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムは国立科学博物館賛助会員及び公益財団法人三豊商事復興支援財団の支援をいただいています。このイベントの企画運営にあたり、NPO法人大阪自然史センターはJR西日本あんしん社会財団の助成を受けています。

ゆるい 4ラジモ 小友校や 女中こちには まきまいた



上：大船渡でのワークショップでは小田団員がイラストを提供してくれました。豪華！

震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム大船渡「すごいぞ！肉食恐竜VS草食恐竜」関連イベント

● 作ってあそぼう！子どもワークショップ ●

肉食恐竜 VS 草食恐竜

はくたちの はくぶつかに ホネホネ恐竜が やって来た♪

12月16日(日)
10:30~15:00
受付は15:00まで、博物館は16:30に閉館します

申込 不要

参加費 無料

大船渡市立博物館
〒022-0001 岩手県大船渡市末崎町字大浜221-86
TEL 0192-29-2161 FAX 0192-29-2162

全身骨格まるごと2体
アロサウルス&
マラウイサウルス
展示中!

主催：大船渡市立博物館・国立科学博物館
企画・運営：なにわホネホネ団・NPO法人大阪自然史センター
協力：大阪市立自然史博物館、芥川種地資料館 あくあひあ芥川、西日本自然史系博物館スタッフ有志、奈良県立奈良高等学校、小田 隆（成安造形大学）、株式会社 ACTOW

国立科学博物館



企画展

博物館の 標本工房

Atelierum specimenum animalium in museo

2012 12.15 (SAT) 2013 2.24 (SUN)

アビスタク (動物骨格標本) 03M-4F2001092

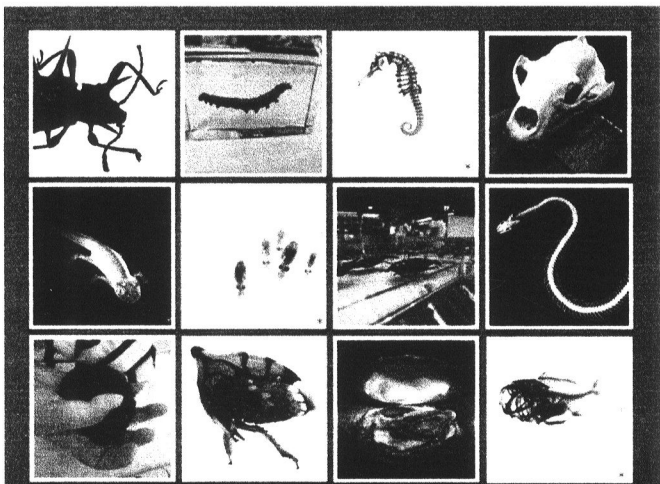
2013年1月
27日 神奈川県立生命の星地球博物館 企画
展関連講演会「博物館で標本にかかわる達人
たち」
【行った人】団長 浜口とり団員、阿久津団員、
橋団員、浜口とり団員、山田ニジ団員、ほか
見学に多数の団員
【内容】企画展「博物館の標本工房」の団長
がホネホネ団の10年とその成果、市民と一
緒に博物館をコレクションの充実で盛り上げ
る楽しさについて熱く語ってきました。演者
には死体…いやちがった解剖男の遠藤秀紀さ
ん、標本士ミノルの姿も。会場には団員の姿

もちらほら。ホネや標本といえは必ず名前の
出るメンバーゆえ、開催前から博物館には問
い合わせが殺到。70名定員の部屋から300
名のホールに会場を変更するものの、申し込
みなしの先着で入れないことを心配した人々
が開館時間からがつり入館し、会場直前
には3階のホールまで螺旋階段に人の列がのび
る前代未聞の事態だったとのこと。詳細は人
気ブログで新人団員のメレ山団員のブログ
「メレンゲが腐るほど恋したい」に臨場感たっ
ぷりにまとめられています。←
<http://dhatena.ne.jp/>
mereco/20130212/p1

終了後の会場からの質問は、傷病鳥獣の保護をしているが、亡くなってしまった動物たちの活用について悩んでいる...といった相談が多かった。何人にも話しかけられたが、みんなちがう団体に所属してそれぞれ傷病鳥獣保護に関わっているのが印象的。たくさん動物保護関連の団体が活動しているんだな。神奈川って。個人的には、アオバトの調査と研究で有名な団体「こまたん」のみなさんにご挨拶できたのが嬉しかった。博物館関係のサークルでは30年のキャリアという大先輩。調査で楽しみ、まとめて楽しみ、それを発表（日本野鳥の会神奈川支部の研究年報など）して楽しむという、市民調査と知見の還元という流れが確立しているのがすごい。ルール

なしのゆるゆる運営というところはホネホネ団に似ているものの、さらに「こまたん」は会則も会長も会費もないし登録メンバーのリストもない徹底ぶり。でも続けているのがすごい。それはアオバト、というゆらがないテーマがあることと、「新しいメンバーには親切にする」というすてきな姿勢、そして世話役の斎藤さんや金子さんの、ほんわかした世話好きのおもしろがりな方々の人徳によるものだよねあと感心しながら戻ってきた。

そうそう、その後、「こまたん」から嬉しいニュース。講演会を聴いたこまたんメンバーの主婦の方が平塚市の郊外を散策してキツネとタヌキの死骸を発見。「ホネホネ団の方たちならきつと持ち帰った事でしょう



九州大学総合研究博物館 平成24年度公開講演会
自然史標本の最新作製技術と魅せ方

(日時) 2013年2月23日(土) 13:00~17:30 入場無料/申込不要
 (会場) 九州大学箱崎キャンパス 21世紀交流プラザ1 2階多目的ホール (100名)
 (講演会スケジュール)

- 12:30 開場
- 13:00 主催者あいさつ
- 13:10 第一部開始
 - 西澤 真樹子 (大阪自然史博物館・なにわホネホネ団 団長)
 「ホネホネから楽しむ博物館—市民が育てる展示と標本コレクション—」
 - 福田 伊織 (透明標本作家) 「透明標本から見える、新世界」
 - 丸山 宗利 (九州大学総合研究博物館 助教) 「微小昆虫の撮影と効果的な展示法」
- 15:20 休憩 (20分)
- 15:40 第二部開始
 - 三輪 弘宗 (兵庫県立人と自然の博物館 研究員)
 「自然を身近なものにする参加型の展示技術—封入標本とプラスチック—」
 - 阿部 祥子 (九州大学総合研究博物館 専門研究員)
 「移動博物館「ベッド・サイド・ミュージアム」小児医療現場での実践報告」
- 17:00 質疑応答など (17:30 終了予定)



「行った人」団長、浜口とり団員、山田ニジ

【内容】団長がホネホネ団の活動を紹介します。神奈川とほぼ同じ内容。ツイッターでの実況とリアクションのまとめはこちら。会場も演者もつぶやいておもしろい。←

<http://togetter.com/li/461142>

神奈川に劣らず講演者も湧えていて、東京の某骨サロンつながりの友だち「透明標本」作家の富田伊織くんが透明標本の世界感と作成技術を惜しげもなく紹介。標本だけでなく生のイメージを伝えたい、と、カメラマンと共同作業で作る美しい写真は「標本ぼく」撮影せずに時には正面、角度を変え、動きを表現し、生きているようにと考えて撮影しているそう。グリセリンを溶かした中にゆっくり落とし、沈む動きを撮ったりするんだそう。

ライティングも凝っている。ライトボックスと透明標本を持参して、しばし鑑賞タイムまであった。美しかった。

次はホスト側である九州大学総合研究博物館の丸山宗利さん。虫好き自然史な本好きにはたまらない『アリの巣をめぐる冒険—未踏の調査地は足下に』や『ツノゼミ—ありえない虫』の著者でもある。この本の美しいツノゼミ写真は丸山さんの技法によるもので、その技術を惜しげもなく紹介。ツノゼミ標本は小さすぎるため、人にその魅力と特徴を見てもらうための深度合成撮影法を考えた。標本を層状に、高倍率のカメラで段階的にピントをあわせて撮影し、画像合成ソフトで合成。それで行った特別展『ツノゼミ彫刻を背負った小さな虫』が編集者の目に留まり、件のツノゼミ本出版の運びとなったそう。

ついで、これもまた博物館なお友だちの兵庫県立人と自然の博物館の三橋弘宗さん(三橋さんがホネホネ団を推してくれたらしい・感謝)。封入標本とプラスチック技術で、標本を親しみのある、気楽な存在にすることを心がけて活動している様子を話してくれた。博物館の標本をもっと使えるものに変えようと「手にとれる、誰もがつかれる、誰もが表現者になれる」この3つを実現させてきた活動してきたそう。三橋さん

標本の出来上がり、すごくうまいんだよね。

トリは、ふたたび九州大学総合研究博物館の社会人研究生の阿部祥子さん。数年前のホネホネ団での小児科病棟での出張プログラム



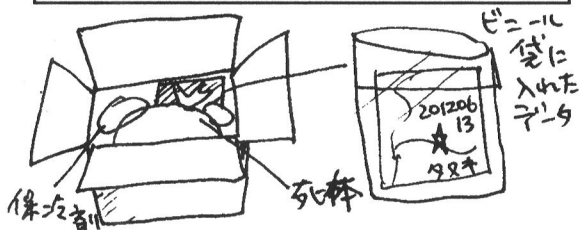
なにわホネホネ団からのお願い

死体は重要な標本です。ぜひ回収して博物館まで届けてください。届けるときにはビニール袋で3重ぐらいに包んでください。直接持ち込むほか、冷凍の宅配便も利用できます。着払いでも結構です。その際、内容は「標本」「サンプル」とお書き下さい。

送ったり、持ち込んだりするときには、ホネホネ団まで連絡をください。標本の採集日、採集場所（地図のコピーに印でOK）および採集者の名前を書いてメモを同封することを忘れなく！

お問い合わせ先

大阪市立自然史博物館
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp>
 動物研究室 和田学芸員
wadat@mus-nh.city.osaka.jp



— 好評発売中！ —

『獣の標本作成ガイド 解剖編』

～道ばたから収蔵庫まで～

団長 西澤真樹子 著
 2005年刊 37ページ
 簡易製本 価格 250円



編集後記

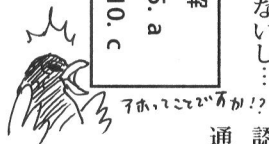
記事募集

今年から哺乳類の日と鳥の日がわかれました。通常の活動日だけ参加していると、鳥類の標本作製について目にする機会が減ってしまうのではないかと危惧して、軽く鳥特集にしてみました。かくいう編集子も西表島鳥類調査隊の隊員であります。事務局長の記事にあるとおり、140羽のキンバトが冷凍庫で標本にされる日を待っています。「鳥の日」では参加する西表島鳥類調査隊の隊員は、できればキンバトを処理することが求められますが、今のところ一回の活動日で5〜10羽程度しか標本にできていません。このペースでは冷凍庫のキンバトを全て処理するのに2年以上かかってしまいます。話によると、さらに追加でキンバトが送られてくるのか…

このままでは永遠にキンバトを剥き続けることになってしまいます。しかしながら、がんばっても編集子の腕では1日に2羽処理するのが限度です。隊員の数を増やすしかありません。切実に入隊希望者をお待ちしています！キンバトいいですよ！かわいいし、天然記念物で日本希少野生動物種だし、サイズが手頃だし、ハトの割には皮が丈夫だし、同じ種類の鳥を何羽も剥けば技術も向上するし、脳みそはちょっとしか入っていないし…

トウ割キ隊標記試験の正解

- 1. c 2. b 3. a 4. b 5. a
- 6. c 7. a,d,f 8. c 9. b 10. c



ホネホネ団通信では、常に原稿を募集しています。原稿用紙半分程度の短いものから超大作まで幅広く受け付けています。手書きでもパソコンでもOK、イラストや写真もありです。投稿方法は電子メール、博物館へ郵送したり持つていく、活動日に手渡しなどです。送料や交通費は自己負担でお願いします。内容はホネに関すること全般ですが、例えば…活動報告・活動日にこんな作業をした、ホネホネ団の活動でどこかに行った、ホネを見に行った、死体やホネを拾った、入団試験を受けたなど、何かしたら記事を書いてください。私物標本・個人で色々拾ったり組み立てたりしている方も多いと思います。拾ったホネ、組み立てたホネ、組立中のホネ、ホネにする予定の死体など、何か持っていたら写真とエピソードを寄せてください。

本紹介・ホネに関する本を紹介してください。読書感想文の宿題が出たら、ホネに関する本にして、ホネホネ団通信にも送ろう！

他にも編集から色々記事を依頼しますので皆様よろしくお願ひいたします。

ご了承ください

作成の手間を省くために原稿の校正を編集が勝手にしています。大幅変更は投稿者に確認しますが、内容が変わらない程度であれば通知しないことがあります。

ホネホネ団通信編集 佐竹

gcd03100@nifty.ne.jp